ひろば

ミニコミ紙

平成11年3月20日
鈴木武一
用賀出張所
TEL 3700-3657

第46号
発行者　鈴木武一
発行所　用賀出張所

玉川の江戸小紋

玉川一丁目　橋本六郎

玉川の染物は、江戸川と共に約四百年ぐらい昔からあったようです。型染で『江戸小紋』といわれています。

染物工場は、町全体で十二～三軒もあったかな。冬は水が冷めたくて、手は皸(あかぎれ)でそれは大変な仕事だった。

若い頃に鍛えているからか、八十八歳になった今でも寒いのは割と平気です。

二子玉川小学校の五十周年の時、子どもたちに小紋の話を伝え、型紙と道具を学校へ寄付しました。今はどうなっているかな……。

『江戸小紋』は、東京都の伝統工芸として後世に伝わるように、技術者を無形文化財として、東京都伝統工芸師の指定をしています。

近年、この紋様が世界的にも認められ、外国のデザインにも多く取り上げられている様です。

西用賀通りの桜並木

上用賀四丁目　村山朱美

窓越しの穏やかな陽射しにふと目をあげると、ほんのり薄桃色に桜の花芽が膨らみかけています。

毎日見ている西用賀通りの桜並木が特に見事に思えたのは六年前、娘が小学校に入る日のことでした。

ピンクのトンネルが見渡す限り続き、花びらが舞い地面は桃色の絨毯が敷き詰められた様でそれはそれは夢のようでした。

風はまだ少し冷たいけれど春の準備は着々と進んで、並木は今年もまた美しく、降る様な満開の桜を咲かせてくれることでしょう。

それが待ち遠しい今日この頃です。（用賀小学校子ども会長）

春のさんぽ道

ふるさとめぐり　用賀駅～公園コースを歩いて

用賀四丁目　高橋恵子

今にも降り出しそうな冬の日、南コースを歩きました。出発は玉電用賀駅跡。路面電車は地下鉄に、駅も道路の下へと変わりました。

南へ行くと「田中橋」。高速道路の下に隠れ、名前の由来である田の中の橋というイメージはありません。「向大橋」構辺りは田畑が広がっていたとのことですが、今は広い国道が通っています。

一方、延命地蔵や向稲荷、用賀神社は時を超えて息づく歴史といえます。そっと供えられた花束に守り伝える人々の心が感じられます。

降り出した雨が雪にかわるころ、真福寺の赤門がやさしく迎えてくれました。

畑の人気者

瀬田五丁目　大塚信美

『幻の大根復活！』の記事で東京全土をにぎわせた「大蔵大根」は、消費者のみならず、プロの板前さんの間でも大評判の大根。煮物、鍋物、おろし等どんな料理にもうま味を出す優れもの。大根本来の味が消費者の皆様に受け入れられたものと感じています。

今や全国から取材要請が来る程の人気者に成長しました。

食べることにこだわりをもつ人、それを意識して野菜をつくる農家との調和は、これからも大事にして行きたいですネ。

世田谷たがやせ旬の味。

谷沢川の染井吉野（桜）

用賀二丁目　鈴木昭雄

「田中橋」より「上の橋」までの谷沢川の両岸に、染井吉野が植えられたのは、昭和三十二年でした。しかし、高速道路建設の為「田中橋」より「向大橋」の間は、若木のうちに撤去されてしまいました。

今は、「向大橋」より「上の橋」までの老木は元気に花を咲かせていますが、「宇佐前橋」改修と護岸工事の為、十二本が若木に変わりました。

商店名が書かれた雪洞(ぼんぼり)や提灯(ちょうちん)に飾られた、そんな艶(あで)やかな時代もありました。

四十余年の歳月に楽しみを与えてくれた染井吉野よ末長く谷沢川の流れに、花弁(はなびら)を散らしてほしい。

国際高齢者年　早春の詩

鈴木武一

雲かカスミか朝のもや
早る陽気の春うらら
花鳥山水　うれし野づくり
寸足あげたり伸ばしたり
弥生三月ひな祭り
卯月四月は花まつり
ルンルン気分のリズムづけ
仲よしみんなボク仲間
国連さんが決めました
今年しゃ国際高齢年
そうだみんなで…前進め
百歳以上が万超えた（三千八人）
ニッポン長生きニッコニコ
どんどん後から続いてく
嬉しい顔が笑ってた
も一つ今年の大仕事
全国統一地方選
当選第一よいけれど
どうでもよい人国ります
仕事する人……頼みます
エイトライナー実現だ
環八ルートでやって呉れッ
ズーと待ってた赤羽・羽田
世田谷さんの推進を
どうなる事かと待ってます
或る「トショリ」は言いました
生きてるうちに開通で
何が何でも乗りたいね
冥土で喋きくよりも
乗ってみたいなヒドッ飛び
正しい選挙で議員さん
バッチの付け替えお上手に
ボク・キミみんなの一票は
チンと決めます知事・区長
今から胸に秘めて居る
行きます必ず投票所ッ
嬉る選挙……福豆です
蔦中のあなたお忘れずに
見て呉れッ……開票ニュース板
普恵の花だョ用意ドン！

ひろば　ご希望の方は出張所においてありますのでどうぞ

回覧										

郷土紹介

用賀の条通り

この春、『用賀の条通り』が正式に発足しました。

玉川綜合支所管内は昭和初期に行なわれた耕地整理事業により道路が整然としているのが特色ですが、中でも用賀、上用賀の町は東西南北、碁盤の目の様に生活道路が通じています。

上用賀地域の耕地整理は昭和九年五月に着工し、二ヶ年弱で工事を終了しました。これだけの広い面積を短期間で完成と云うのは、当時、全国的にも珍らしかったとの事です。工事費は皆で出し合った土地五万坪（今の馬事公苑用地）を、帝国競馬協会に売却して充当しました。

耕地整理直後は、畑の中に広い道が出来たと云う状態でしたが、戦後、宅地化が進み、周辺は便利な住宅地と姿を変えて、平成年代に入り、この数年、集合住宅も急増しています。

一方、碁盤の目の様な町並みは、どの町角も似ていて、目印がないと云う欠点もありました。そこで、考えられたのが道の条通り制。

新玉川線用賀駅から北へ一条通り、二条通り……今、道の角々に木製の表示板（用賀中学の生徒が作成）が出ています。そして、七条通りには、区の公募に基づく正式な『用賀七条通り』の標識が建っています。

（飯田）

提言

キレるについて考える

瀬田四丁目　長沼世紀

「むかつく」「プッツン」などの表現から、「キレる」にたどり着いてしまった子ども達。モヤモヤ、イライラの表現から、対話も関係も日常生活まで否定する最後通牒的な言葉を選んだ子ども達は、今、何を考え何を発信しているのだろう。

大人ですら追いつくには苦労する社会の急激な変化は、膨大な量の情報を、ストレートに子ども達の世界に投げ込んでくる。年寄りから親へ、親から子へ、噛み砕かれて伝えられた時代と違って、今の子ども達は、消化不良を起こしイライラを募らせている。そして、単家族の中で良い子を演じ、へとへとに疲れているのではないか。

少年犯罪が凶悪化している側面を否定するものではないが、「キレる」子に烙印を押すことでは何の解決にもならない。

大人も疲れ病んでいる。進歩の先が見えない、モデルのない社会の中で翻弄されている。

子ども達の必死の叫びを受け止めるためにも、大人が大人としての姿勢を確かなものにする努力をしなければならない。

地域の中にあっても、家庭、学校の中でも、子ども達の子どもらしい生き生きした姿に接したいと思う。

（青年委員）

FM世田谷のボランティア特派員

上馬二丁目　東井美都子

「わあ、こんな所にきれいな辛夷（コブシ）の花が！」「あっ、あの白いレースみたいなの、烏瓜（カラスウリ）の花じゃない、懐かしいなあ。」

歩いている時、自転車の時、花に気付くといつでも足を止め、しばらくうっとり見とれます。すると幸せ感が胸にジワッと広がって、ルンルン気分になるのです。

今どこにどんな花が咲いているか知りたい、見たい。そう思って区役所に問い合わせてみました。「区の花の鷺草（サギソウ）は開花状況をお知らせしているのですが、他の花は……」

そんな時、FM世田谷の特派員募集を知ったのです。そうだ！自分が花情報の発信人になろう。私と同じように知りたい、見たい人はいるだろう。私が見つけた街の花、野の花、自然の美は、皆と分かち合いたい。花と緑は皆の共有の宝なのだから。

こうして私は自分の目と足を使ってささやかな花便りをレポートするようになりました。日々新たな発見があり、好奇心も広がり、楽しい仲間にも出会えて、レポーターをして本当によかったと思います。いつの日かFM世田谷を通じて花情報が交換できればと願っています。

（玉川地区担当）

Setagaya 情報の広場

FM Setagaya 83.4MHz

3月23日（火）午後4時～

〈世田谷の宝・みどりの生命線 ―国分寺崖線〉

↑↑玉川地区特派員担当の番組です

スポット

催し物

3月28日（日）
玉川台区民センター
花と緑のフェスティバル

4月21日（水）
兵庫島河川公園
花みず木フェスティバル

5月22日（土）～23日（日）
瀬田フラワーランドの集い

5月30日（日）
統一美化キャンペーン・ごみゼロデー

7月7日（水）
歩こう会

統一地方選挙

4月11日（日）
東京都知事選挙
東京都議会議員補欠選挙

4月25日（日）
世田谷区議会議員選挙
世田谷区長選挙

問　用賀出張所

あとがき

春宵一刻、価千金、花に清香、月に影……今年も桜の季節となりました。

私たちの町にも花のトンネルがあちこちに、砧公園は新しい桜の名所とか。

春は人の心をうきうくさせます。巣立ち行く子ども達、社会人一年生は希望に燃えて、そして、水ぬるむ川辺に、ゆるやかな時が流れる。

目を外に……四月は全国各地で統一地方選挙、新しい世紀の扉を開ける為、大切な年になりそうです。

では、次号は夏の便り。

（飯田）